

## 生命保険見直し術 → 世帯の必要保障額は？



今回は、世帯あたりの必要保障額について考えてみましょう。

下表に世帯主に万が一の場合の必要保障額を世帯主の年齢別に示してみました。ぜひ、ご自分の保険の保障額と比べてみてください。



### ◆ 世帯主が万が一の場合の家族の必要生活資金（平成6年）

		万が一の場合に必要なと考える家族の生活資金（*）		
		年間必要額	必要年数	総額
全 国		417万円	17年	7,119万円
世帯主 年 齢 別	～29歳	379万円	25年	9,280万円
	30～34歳	433万円	21年	8,689万円
	35～39歳	466万円	20年	9,565万円
	40～44歳	457万円	18年	7,983万円
	45～49歳	492万円	16年	7,948万円
	50～54歳	440万円	16年	6,989万円
	55～59歳	394万円	16年	6,304万円
	60～64歳	358万円	15年	5,169万円
	65歳以上	313万円	13年	4,355万円

\*生命保険文化センター調べ

（\*）は「世帯主に万が一のことがあった場合に、残された家族のために必要と考える生活資金はいくらか」という質問に対する回答です。

上の数字からなにが読み取れるでしょうか。「世帯主に万が一の場合、相当高額な生活保障が必要になる」と多くの方が感じているということです。さらに、世帯主に万が一のことがあった場合の遺族の生活資金準備について、「不安である」と答えた人が実に72%にのぼります。

万が一の生活保障を準備するもっとも合理的な手段は生命保険の活用だと思われます。不安の原因の大きなものに、加入されている生命保険にたいする漠然とした不安があるのではないのでしょうか。

いま、ご自分の生命保険をもう一度考え直してみましょう。当事務所では、個人法人を問わず最適生命保険のコンサルティングサービスを実施しています。ぜひご相談ください。

担当 渋谷 洋子

